お四国ゴルフかわら版
2009.10.15
第36号
発行
四国ゴルフ連盟
〒790-0921
愛媛県松山市福音寺町55-1
電話 089-990-3260
FAX 089-990-3261

琴平が執念の初優勝

四国クラブ対抗決勝　大会新の最少打数

第29回四国クラブ対抗決勝（8月7日、志度CC、6315ヤード、パー71、17チーム136人参加）

平成21年度の四国最強チームの座を争うクラブ対抗決勝大会は、例年どおり酷暑の下での激戦となり、琴平がトータル508ストロークの大会新記録で念願の初優勝を手中にした。連覇と、8度目の最多優勝回数の達成をめざしていた鳴門は惜しくも2位に止まった。

決勝競技は前半、実績のある常連チームの小差の競い合い。後半に入って各チームのエース選手がそろってホールアウトし始め、琴平が混戦を一気に抜け出した。

3位は常連の今治。開催コース志度も健闘したが一打おくれて4位だった。個人戦では14人がアンダーパーをマークした中で、大西秀昭選手（琴平）が67ストロークをマークし1位に。2位には69の森内信隆（松山シーサイド）宮内信太郎（道後）崎山俊紀（今治）の3選手が入賞した。成績次のとおり。

①琴平508②鳴門519③今治522④志度523⑤松山シーサイド523⑥道後525⑦土佐529⑧タカガワ新琴南529⑨屋島533⑩四万十538⑪こんぴらレイクサイド539⑫グリーンフィール539⑬松山国際546⑭高松554⑮タカガワ西徳島554⑯滝の宮555⑰レオマ高原555

大会新の508ストロークでV1を飾った琴平チーム

チームワークの勝利

山本三十四琴平CC総監督の話

60、50歳代が4人と選手の平均年齢は若くなかったが、補欠も含めて実力に差がなくチームワークは抜群だった。これまで2、3位はあるので、最初から優勝を目標に練習を重ねた。執念が実って嬉しい。

ハイレベルの熱戦　四国ジュニア

第29回四国ジュニア選手権（7月23・24日、北条CC、男子6799ヤード、パー72、100人参加。女子6109ヤード、同、49人参加）

このところ四国アマ、女子アマを制覇しているジュニア勢の大会だけに見こたえのある熱戦が期待された。

男子15―17歳の部では、初日から松山英樹（明徳）原敏之（寒川）両選手がともに67で首位に並んだが、最終日スコアを伸ばした松山選手が通算8アンダーで連覇。上位6選手がアンダーパーだった。

同女子の部は、8位タイで最終日を迎えた栗永遥選手（香川西）が驚異的な65であがり通算1アンダー。前年度優勝の堀奈津佳選手（寒川）とのプレーオフ決戦の結果、堀選手が連勝した。

このほか女子12―14歳では、四国女子アマ優勝の鈴木愛選手（徳島三加茂中）が初日から首位に立ち、最終日も69の好スコアで初優勝を飾った。各クラスとも注目選手が評判どおりの活躍で、ジュニア勢のレベルの高さをみせつけた。今後の成長が楽しみだ。成績次のとおり。

▽男子15―17歳の部　①松山英樹136②手束将之（寒川）橋本龍位（同）原敏之（同）142⑤池上憲士郎（香川西）山岡成稔（城北）143⑦長沢佑太（明徳）144⑧國北泰成（徳島北）145＝以上日本ジュニア選手権へ

▽同女子　①堀奈津佳143②栗永遥143③濱美咲（生光学園）147④和田芽緯（明徳）149＝以上日本ジュニアへ

▽男子12―14歳　①亀代順哉（徳島鴨敷中）152＝日本ジュニア〈②竹田慎之介（愛媛大洲南）154③上岡信晴（愛媛三津浜）香川奈鷹（香川三野津中）158

▽女子同　①鈴木愛144＝日本ジュニア〈②堀真珠（香川紫雲中）148③森田遥（付属高松中）150

日本ジュニアで松山V

第15回日本ジュニア選手権（8月19～21日、霞ヶ関CC）男子15―17歳の部に出場した松山英樹選手（明徳）は、3日間首位をキープ、通算5アンダーで初優勝した。

崎山（今治）接戦制し初V

四国シニア　豪雨で第2R中止

第29回四国シニア選手権（10月1・2日、土佐CC、6628ヤード、パー72、183人参加）

薄曇り、無風の好コンディションの初日、崎山俊紀（今治）千原喜清（鳴門）両選手が70で首位に並び、2打差で羽藤悟志（新伊予）選手、さらに3、4打差で12人がひしめく大接戦となった。

最終日、夜半からの豪雨。予定通りスタートはしたもののグリーン上に水が浮き18ホールの消化は不能と判断、午前10時45分競技を中止、初日の成績をもって大会終了を決定した。

このため初日首位の崎山、千原両選手による雨中のプレーオフ決戦となり、1ホール目の16番ミドルでバンカーからの第2打をピンそばに寄せた崎山選手がパーディーを決めて初優勝した。なお、天候不良によるシニア大会中止は、第24回大会（平成16年、Kochi黒潮CC）以来、2度目。成績は次のとおり。

①崎山俊紀70②千原喜清70③羽藤悟志72④森田俊治（琴平）73＝以上日本シニア選手権へ＝井上幸伸（土佐ユートピア）同、梅林伸一（愛媛）同、坂野明宏（トクラシック）同

初優勝した崎山選手

ミッド優勝岡本選手

グランド優勝鴨井選手

55歳3人以上に改訂

来年からのクラブ対抗

平成22年度から四国クラブ対抗競技の出場チームメンバーの構成を「55歳3人以上にするよう競技規定が改められた。競技人口の高齢化に対応したもので、先ごろ開いた四連競技委員会で決まった。

平成13年までは、50歳3人以上の規定があったが、翌年から解除されていた。なお、来年度の第30回クラブ対抗決勝の開催コースはタカガワ東徳島GC。

児童も元気にプレー

四国小中学生大会開く

第4回四国小中学生ゴルフ大会（四連ジュニア委主催）は8月18日、新居浜CCで開かれた。参加人数も年々増え、今年は四県からの113人の児童生徒が学年、性別の5部門に分かれ炎暑の下、技を競い合った。優勝者次のとおり。

小学4―6年男子＝杉原大河（徳島）▽同女子＝安藤京佳（愛媛）▽小学1―3年＝鴻上みらい（愛媛）▽中学男子＝大谷裕貴（香川）▽同女子＝堀琴音（徳島）

なお小学生クラスの上位成績者は日本ゴルフ協会主催の全国大会などに出場する。

ミッドは岡本（鳴門）　グランド鴨井（エール）

第16回四国ミッドシニア・グランドシニア選手権（9月16・17日、滝の宮CC、ミッド6274ヤード、パー72、100人参加、グランド5983ヤード、同、65人参加）

ミッドは初日、岡本忠応選手（鳴門）ら3人が72で首位に並び、さらに二打差で4人が追う大混戦。最終日、岡本が安定したプレーでトップを守り通算147で初V。

グランドシニアは初日、1オーバーで2位スタートした鴨井康彦選手（エリエール）が二日目、71で回り逆転初優勝を果たした。また2位の真木清臣選手（新居浜）は、最終日の11番ショート（132ヤード）でホールインワンをマークした。成績次のとおり。

ミッドの部　①岡本忠応147②黒川倫行（愛媛）倉本隆（新琴南）148④田中昭男（高松）真井純一（御所）150＝以上日本ミッドシニア選手権へ

グランドの部　①鴨井康彦144②真木清臣145③大田勇（新伊予）148④伊東隆弘（新居浜）150＝以上日本グランドシニア選手権へ

ギョシ・ゴシ・南

大正13年に日本ゴルフ協会が誕生し、その後、日本オープン競技が始まった時が本当の意味での日本ゴルフの独立ではないでしょうか。

それは昭和2年5月28日、29日の2日間、72ホールのストロークプレーで戦われました。会場は大正11年開場の神奈川県の保土ヶ谷CC。英米と同じ方法で第1日が36ホールで、トップとのスコアが20点以上の選手は予選通過できませんでした。

出場者はアマチュア12人、プロ5人の17人で、アマの1位には金メダルが与えられ、プロの賞金は1位500円、2位300円、3位150円、4位100円、5位50円でした。当時、立派な一戸建ての家が千円で買えた時代ですからプロの1位500円は相当な高額賞金だったことがおわかりでしょう。

この第1回大会のチャンピオンは、アマの赤星六郎氏で2位の浅見録蔵プロを10点も離しての優勝でした。赤星氏については以前、当欄で兄の四郎氏とともに米国に留学、ゴルフを習得して帰国後、本場仕込みの技を伝授した日本ゴルフ界の恩人の一人と紹介しました。大会参加のプロたちも全員が六郎氏の弟子だったのですから、彼の優勝は当然のことでした。

日本オープン

おらが倶楽部でござる

其の三十七　タカガワ西徳島ゴルフ倶楽部

コース内に土柱の神様　トリッキー眺望も抜群

県都徳島市から吉野川沿いに西へ約35キロ、タカガワ西徳島ゴルフ倶楽部は吉野川中流域の北岸に連なる阿讃山脈のすそ野、旧阿波町（平成17年、隣接4町が合併し阿波市）の丘陵地に拡がっています。

近くに阿波の土柱

徳島自動車道の脇町ICから2キロ、車で10分の近距離に位置します。また、当ゴルフ場のすぐ東には、国指定の天然記念物「阿波の土柱」があり、年間を通じて観光客でにぎわっています。

（阿波の土柱）　130万年前、吉野川によって作られた軟弱土質の砂礫層が風雨に浸食され、柱状や屏風状になったもの。その代表的な奇観が波涛嶽。高さ10メートル前後の土柱が南北約90メートル東西約50メートルにわたって林立しており、世界3大土柱の一つに数えられている。付近一帯は県立自然公園となっている）

さて、当倶楽部は昭和53年に開場、今年で31周年を迎えますが、最初は27ホールのゴルフ場として計画されました。用地買収も終え造成工事が始まったころ、オイルショックが突発しました。

その余波を受け当倶楽部の造成工事も一時中断となりましたが、地元有志の熱心な支援で18ホールに計画縮小、開場にこぎつけました。

以後、コース改良を積み重ね、現在の個性的で戦略性の高いゴルフ場に成長しました。全ホールが南向きで、眼下に四国三郎の蜈蚣（えんえん）たる流れ、広々として阿波平野、晴れた日には遠く剣山、徳島市街を望める抜群の眺望が楽しめます。

打ち上げ打ちおろし、ドッグレッグなどもバランスよく配置された設計で、県外からのお客様から「トリッキーで面白い」と言われます。

アウトは全体にショットの正確性がカギ。風の計算が難しい4、8番ショートが推奨ホール。一方、インは美しい松林に囲まれた林間風のホールが続く。目前に大きな池のある16番ショートが名物ホールで、倶楽部競技でも幾多のドラマが演じられています。

クラブハウスも新装

最終18ホール、第2打地点の左側林の中に「土柱」が道祖神のように立っています。信心深いお客様が拝むとナイスショットでパーオンしたとか。真偽のほどは別にして、土柱群と同じ土質の当倶楽部です。土柱の神様がいるのは、わがコースだけでしょう。

新しいクラブハウスが昨年11月完成しました。昔のイメージとはまったく違ったモダンな造りで好評です。とくに2階レストランは、総ガラス張りでロケーションは最高。パウスの新装に合わせて、メニューも「新、お客様のご利用を心からお待ちしています。（タカガワ西徳島ゴルフ倶楽部支配人・美馬本寿）

新装となったクラブハウス。2階レストランからは、吉野川、阿波平野、剣山が一望

最終ホールにそそり立つ約5メートルの土柱の道祖神

タカガワ西徳島ゴルフ倶楽部
〒771-1705
徳島県阿波市阿波町北山10番地
TEL:0883-35-5111　FAX:0883-35-6200

お四国随想

手島晧一

トイレ雑感

八十八ヵ所巡りをして一番感じたことは、お寺の便所が綺麗になっていることだ。6番札所安楽寺の便所は日本トイレ協会から「模範トイレ」に指定されているほど綺麗である。

これまで日本の公衆便所はどこへ行っても利用するのが恐ろしいほど汚れていた。遠くからでも所在がわかるほど悪臭を放ち、その上、入っても使用に耐えないほど不潔だった。壊れたまま放置していたので、他の便器や周囲を汚していた。

今回廻ってみて、どのお寺も随分と清潔になっていることに気付き、こんなところにも日本の近代文化？が進んだのかと思った。

だが、考えてみるとお世辞を言うほどのことではなく、今までが悪すぎたのだ。日本の公衆便所と言えば汚いことで有名で、みんなが汚すのだから汚くて当然という考えかどうか知らないが、まったくひどかった。それが今回廻ってみると、ほとんどが綺麗になっていた。昔のままのものもあったが、改造され綺麗に掃除されていた。

また、道の駅が沢山でき、ここのトイレは休んでいても心の安らぎを感じるほど綺麗だった。中には身障者のためのものもあり、普通の人もお使い下さいと書いてあった。

身障者の便所は広く安心して幼児を寝かせる場所や、おしめを替える場所まである。道の駅によって浴場、特にバイクや車で旅を続ける人のためにシャワーを用意している所もあり、こうしてみると八十八ヵ所も随分廻りやすくなった。

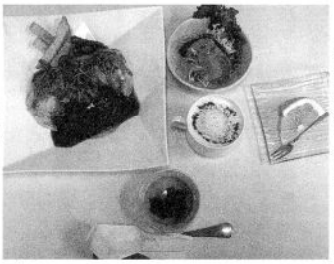
昔でも男性は何とかなっても、女性は大変困っていた。最近は道路脇にトイレ使用可の看板や町役場で便所利用下さいと標識を出しているところもある。春秋の遍路の季節ともなると、寺の宿坊も大変清潔になっている。

ところが困ったことに先日のTVで見たのだが、本当の遍路ではなく八十八ヵ所巡りを利用して、それで食っている連中がいることだ。まったく困ったことだと思う。こんな連中に限って、お接待を利用しているらしく、しかも托鉢の真似をして金銭まで貰っているのには驚いた。何とかしてこんな連中は仏罰で懲らしめてほしいと思うのだが、仏の慈悲は広大なようだ。

（四国ゴルフ連盟常務理事）

お四国 味のクラブ対抗

ハンバーグオムライス（小豆島シーサイドGC）



食欲の秋にふさわしい期間限定の新メニュー。人気料理のハンバーグとオムライスを同じお皿に盛り合わせ、豪快に食べてもらおうという佃洋料理長のアイデアだ。

たっぷりかかったデミグラスソースが食欲をそそる。付け合わせにはきのこ類など。期間限定にしたのは、きのこ類の旬が秋だから。スプレコンソメスープにも、きのこが入っている。上に生クリームを浮かせ、オーブンで焼き目を入れた濃厚な味。この道40年の料理長。季節ごとに新メニューを考える。お客様から「ご馳走さん」と言われるのが最高の喜びと言う。一人前1050円。

中華丼セット（タカガワ新伊予GC）

今春から始めたボリューム満点の定番で、よそとは違う味にこだわる中華専門の田中伸一料理長おすすめのメニュー。

ご飯の上におかずを載せた丼物は、日本で考案、普及したもの。中華丼もその一品で、中国では食べられないそうだ。具材の豚肉、野菜類とイカ、エビをたっぷり鍋に入れて炒め、それに鶏がらや豚の背油などで取った特製スープを加え軽く煮込む。片栗粉でとろみを付け、味付けはオイスターソース。これが絶妙だ。セットの鶏の唐揚げは、しょうがをすり込んだ醤油味。ジューシーに仕上げるのがコツ。玉子スープ、小鉢などが付いて一人前1270円。

料理長のおすすめ

編集を終えて

ゴルフコンペでは多くのアマゴルファーが第1打にこだわる。OBでも打とうものなら心は千々に乱れ「今日はダメだ」と早々にゲームを投げがちだ▲そんなゴルファーに「人間のやるゲームである以上必ずミスは起こる。常にミスを想定せよ」「ゴルフというゲームは、限りなく続くミスをいかに防ぐかによって結果が出る」などと説いたのが、8年前に急逝したアマゴルフ界の名手、中部銀次郎氏である▲日本アマ6勝など輝かしい戦績の彼が残した数々の語録は、今も味わい深くゴルフと人生への教訓に富んでいる。ゴルフ経験の浅い私の教科書は目下、故中部氏の「珠玉の言葉集」である。（A）